

合同慰霊祭に向け、 全国に呼び掛けて喪服を集める

文：いわて生協 マリンコープDORA（宮古市）統括店長 すがわらのりお 菅原則夫



6月23日、山田町の仮設住宅。皆さん雨の中待っていてくれました。

被災地で必要とされるもの

3月14日、衣料品コーナーに浴衣を買いに来た組合員がいました。「最期のお別れに、お母さんに着せたい」と探していたようですが、地元の衣料品店はほとんど営業していません。マリンコープDORAでも扱っていなかったため、店内放送で呼び掛けたところ、すぐに40枚も浴衣が集まったのです。

それから、被災した組合員が必要としている（でも手に取らない）物資をお店で集めることにして、香木みき子理事をお願いして活動を始めました。

被災地で必要なものは、日々変わっていきます。3月の震災直後は防寒着から始まり、食器や衣装ケース、カレンダーなどの日用雑貨に移り、学生服やランドセル……自転車も18台を集め、困っている組合員に差し上げて喜ばれました（交通手段がなく、病院まで片道10km以上も歩いているような方もいたのです）。

急がないと意味がない。 集めてから考えよう

6月26日の「宮古市東日本大震災犠牲者合同慰霊祭」開催が決まってからは喪服の要望が増えたため、いくらあっても足りない状況。ブログや新聞で全国募集を発信しました。考えずに集めていると批判もありましたが、急がないと意味がありません。一人でも多くの人が、合同慰霊祭に参加してほしい。集まり過ぎたら、その時悩めばいい。そう思い、集め続けました。

毎日のように全国から物資が届き、6月18日に合同慰霊祭が行なわれた田老町の人たちを皮切りに、順次組合員に渡していきました。集まった喪服には新品のものもあり、他にも、

バッグや靴、ベルト、数珠など礼服の小物も。温かいお手紙や、現金を同封してくださった方もたくさんいました。そうした手紙を読むと涙が出るのですが、泣いている時間がないので、我慢して仕分けを続けました。同じ被災地の福島県いわき市からの提供もあり、感激しました。私も今後、福島のためにできることを頑張りたいと思っています。

店舗への来店者2,000人超、 仮設住宅訪問343人にお渡し

1,000人を超える全国の人に支援いただき、喪服は2,000人以上のかたがたに行き渡りました。「さすが生協さん。加入していてよかった」「買おうか悩んでいたのも、とてもうれしい」と、利用した人には本当に喜んでいただけたようです。

直接お渡しするため避難所や仮設住宅も訪問しましたが、各地で大歓迎でした。雨の中待っていてくれた組合員さん（写真左上）、一緒に物資を運んでくれた組合員さんの協力を感謝しています。

次は、仮設住宅生活者支援のため、復興ギフト（被災地のメーカー、地元業者の商品詰め合わせ）の販売で雇用確保に取り組みます。ささやかですが、仕事を失った人たちの現金収入のために少しでも役立てればと考えています。詳しくは「マリンコープDORA」勝手に応援し隊ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/coop_dora_0024 をご覧ください。今後ともご支援をお願いします。



避難所のシーアリーナにいるかたがたに、喪服などを配布した際の様子。

人が増え、シーアリーナの和室が狭くなったので会議室に移動しました。

